

# 半田活性化、日福大生取り組み

日本福祉大健康科学部(半田市東生見町、半田キャンパス)の学生たちが学業の一環で、半田市の中心市街地の活性化に取り組んでいる。八月に半田運河であるイベントの運営に参加するほか、同市東洋町にある会館施設「アイプラザ半田」の魅力を高めるための提案も行う。学生は「半田のよさを増やす手伝いをしたい」と意気込んでいる。

(大久保謙司)



市観光協会の職員と一緒に館内を見学する学生ら。半田市のアイプラザ半田で

## 運河イベント運営 アイプラザ魅力提案へ

健康科学部の福祉工学科バリアフリーデザイン専修の三年生七人が活動。本年度、七人は学外で地域活性化を研究し、提案をまとめる「地域密着課題」を選択し、半田市の活性化をテーマに決めた。

取り組みでは、八月十九、二十日に半田運河一帯で開催されるイルミネーション行事「Canal Night」の運営に参加し、イベントを通じた運河一帯の活性化を考える。活動の拠点施設となるアイプラザ半田の魅力向上に向けた提案も練り、同月九日に市民らに向けた発表会を開く。

五月三十一日、学生たちは運河一帯を散策し、地域の特徴や風情ある街並みを生かした景観形成のアイデアを模索。散策後はアイプラザに移動し、同プラザ指定管理者の市観光協会の職員と一緒に館内を見学して施設の成り立ちや特徴を聞いた。

参加した藤沢玲衣さん(三〇)は「課題があるなど感じた部分もあり、やりがいがありそう」と意欲を見せた。指導する坂口大史助教(三〇)は「体験を通して課題を見つけ、解決する力を養ってほしい」と期待を込めた。